高校・岡山県知事賞

# 先人の姿を学ぶ

岡山市・岡山南高２年　森　理恵子

　ドーンと音がした。胸が躍り始める。朝鮮通信使行列を再現するイベントが今年も始まりを告げた。私も両親も祖父母も生まれていない二百年以上前のこの日、人々は何を見て何を思ったのか―。

　海も山もあり、時間がゆったりと流れる私が生まれ育ったまち、牛窓。そこに存在する本蓮寺には「本蓮寺朝鮮通信使詩書」が現存する。これを含む「朝鮮通信使に関する記録」が「世界記憶遺産」に登録された。とても喜ばしく誇らしいニュースだ。これは日本と韓国の友好関係の歴史が評価されたと言えよう。先人たちも喜んでいるに違いない。

　しかし、現代の日韓関係はどうであろうか。慰安婦問題を含む歴史認識や領土問題についての対立が激しい。はたして、これはこのままでよい問題なのか。いや、よくないのだ。豊臣秀吉の朝鮮出兵の時代も憎しみや恨みがあっただろう。だが、朝鮮通信使のおかげで国交は回復し、お互いの文化を尊重し、交流を深めることができた。国交問題という難しい課題であるからこそ、先人たちが成し遂げたことを手本として学ぶべきではないか。

　私はふと、小学生のときに参加した朝鮮通信使行列を再現したイベントを思い出した。そこにはたくさんの韓国の方がいて、私も共に会話を楽しみ、活動をした。この「会話」は日韓関係の向上に繋がったと思う。国と国が仲が悪かったとしても人と人が繋がれば、最終的に国と国も仲直りできると信じているからだ。

　千里の道も一歩から。どんなに大きな事業でもまず手近なことの実行から始まるというたとえである。小学生のときのように会話や行事を共に楽しむだけでも「手近な実行」である。コツコツ勉強しなさいと母は私に言うけれど、私はコツコツ人と交流をしなさいとすべての人々に言いたい。回り回って大きな結果が出るだろうから。

　この記事で日韓関係について考える人が私以外にもいるだろう。まず私たち現代人がすべきことは「知る」ことだ。先人たちが遺してくれたことや現代の問題に目を向け、知り、考える。そうした国民一人一人の行動が国を動かす糧になるのだから。

## 朝鮮通信使「世界の記憶」

### 本蓮寺詩書（瀬戸内）含む

### ユネスコ登録　上野三碑も

#### 杉原リスト見送り

　国連教育科学文化機関（ユネスコ）は日本時間31日未明、瀬戸内、福山市など日韓両国の自治体などが共同申請した江戸時代の外交資料「朝鮮通信使に関する記録」と、群馬県の古代石碑群「上野三碑」を「世界の記憶」（世界記憶遺産）に登録したと発表した。第2次大戦中に「命のビザ」で多くのユダヤ人難民を救った岐阜県出身の外交官杉原千畝の資料「杉原リスト」は、登録が見送られた。（3、4、28面に関連記事）

　朝鮮通信使は、朝鮮国王が徳川将軍家に派遣した使節団。一行が通った国内12都府県と韓国に外交文書や絵巻などが残っており、日本の関係自治体などでつくるNPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会と韓国の釜山文化財団が共同で計333点の資料の登録を申請した。

　岡山、広島県の関連資料では、通信使が宿泊した牛窓・本蓮寺に残る「本蓮寺朝鮮通信使詩書」、鞆の浦の「福禅寺対潮楼朝鮮通信使関係資料」、玉野市の旧家伝来品で現在は呉市が所有する絵図「朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図」が含まれる。

　登録を申請した朝鮮通信使縁地連絡協議会の松原一征理事長は、長崎県対馬市で記者会見し「通信使が持つ、平和の普遍的な意義を日韓両国民に広く理解してもらいたい」と日韓友好の深化を願った。

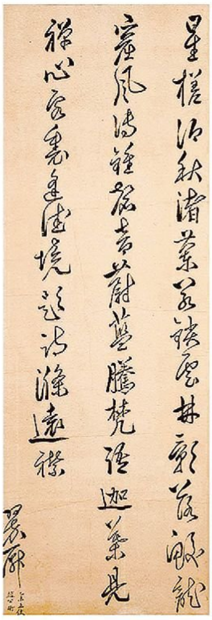
　中国や韓国などの民間団体が申請した旧日本軍の従軍慰安婦関連資料は、登録の是非の判断が延期された。ユネスコは「旧日本軍が慰安婦を規律正しく処遇した」とする資料を申請した日米の団体と対話し、内容を再検討するよう促した。

　上野三碑は飛鳥、奈良時代（7、8世紀）に現在の群馬県高崎市に建てられ、国の特別史跡に指定されている山上碑、多胡碑、金井沢碑の総称。681年建立の山上碑は完全な形で残る石碑としては国内最古とされる。いずれも漢字で刻まれ、東アジアの文化交流を示す遺産として同市などが申請した。

　杉原千畝（1900～86年）の資料は、ナチス・ドイツの迫害から逃れる人々に大量発給したビザ（査証）や対象者の一覧表などを申請していた。日本ユネスコ国内委員会が全国公募し、上野三碑とともに選定した候補だった。ユネスコは不登録の理由を明らかにしていない。

　日本からの登録は新見庄（新見市）の関連資料を含む「東寺百合文書」「慶長遣欧使節関係資料」などに続き計7件となった。

　「世界の記憶」は歴史的な文書や絵画などを保護し、インターネットでの画像公開などを通じ広く共有する目的で登録される。審査は2年に1度実施される。



瀬戸内市・本蓮寺に伝わる朝鮮通信使が残した漢詩書軸＝岡山県立博物館提供

#### 民間交流報われた

　武久顕也瀬戸内市長の話　記憶遺産の登録に向けた日韓共同による長年の運動や、民間交流に励んできた市民の努力が報われうれしく思う。今後も両国の安定と平和に資する地域の誇りとして守っていきたい。

#### 韓国側と連携模索

　枝広直幹福山市長の話　大変喜ばしい。鞆町地区の重要伝統的建造物群保存地区選定の答申もあり、市の歴史、伝統、文化の価値が一層高まる。韓国側のパートナーである釜山文化財団との連携も模索したい。

2017年11月1日付　山陽新聞

**寸　評**

　江戸時代の外交資料「朝鮮通信使に関する記録」が「世界の記憶」（世界記憶遺産）に登録されたという記事から、現在の日韓関係を考察しています。人々の交流が国を動かすと訴えています。

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2018年2月17日掲載